

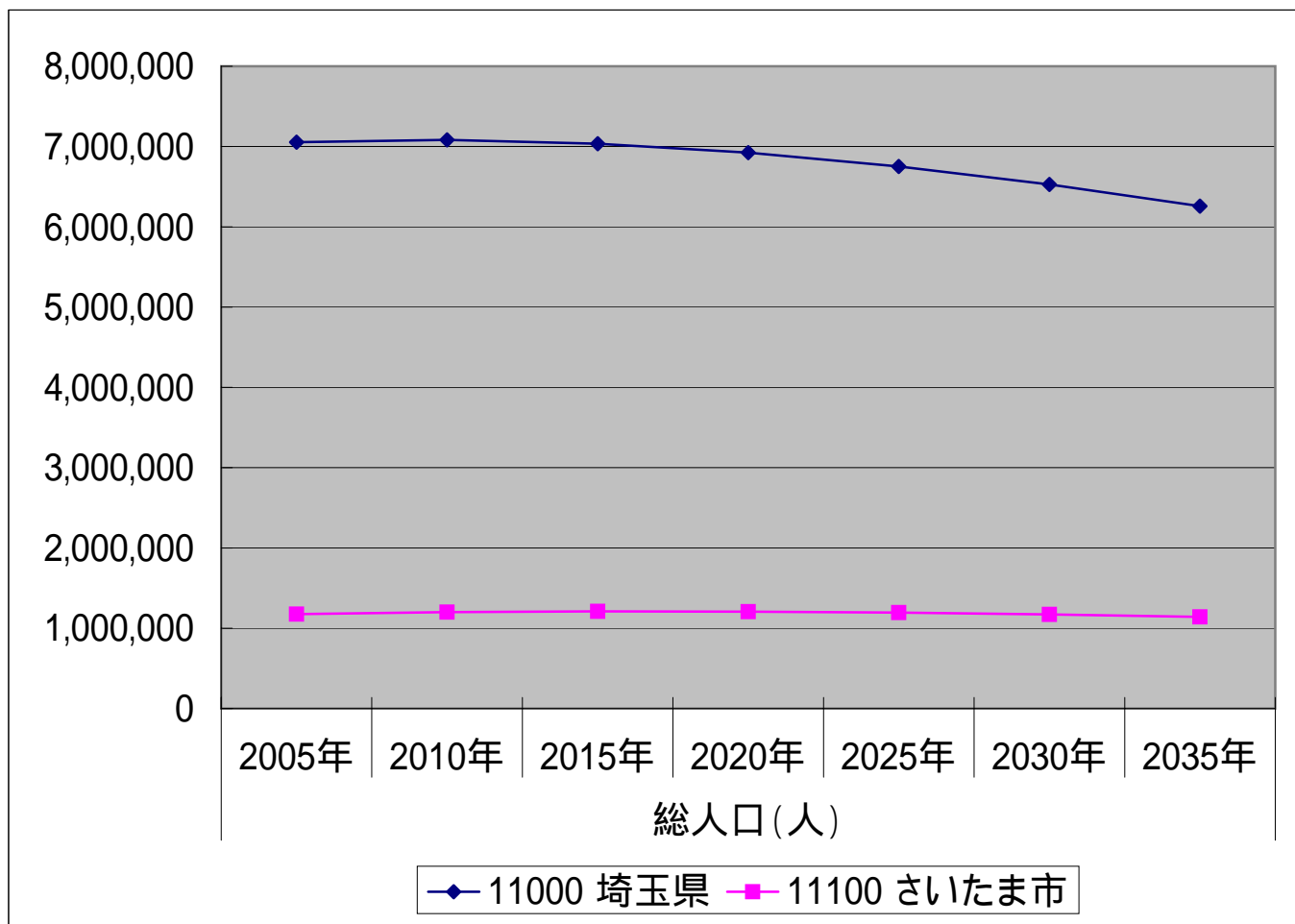
2. 延伸地域におけるまちづくりの現状と課題

(1) さいたま市東部地域(人口動態、交通網、都市計画等の概要)

(資料：さいたま市都市計画課資料含む)

(1) さいたま市東部地域
 (人口動態、交通網、都市計画等の概要)

・人口動態
 さいたま市の将来人口推計



将来の埼玉県・さいたま市における人口および指数 (平成17年 = 100とした場合)

将来の市区町村別人口および指数 (平成17年 = 100とした場合)

地域	総人口(人)						
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
11000 埼玉県	7,054,243	7,082,300	7,034,926	6,923,457	6,752,045	6,526,928	6,257,927
11100 さいたま市	1,176,314	1,201,252	1,209,707	1,207,162	1,194,441	1,172,338	1,141,883
地域	指数(2005年 = 100)						
	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
11000 埼玉県	100.0	100.4	99.7	98.1	95.7	92.5	88.7
11100 さいたま市	100.0	102.1	102.8	102.6	101.5	99.7	97.1

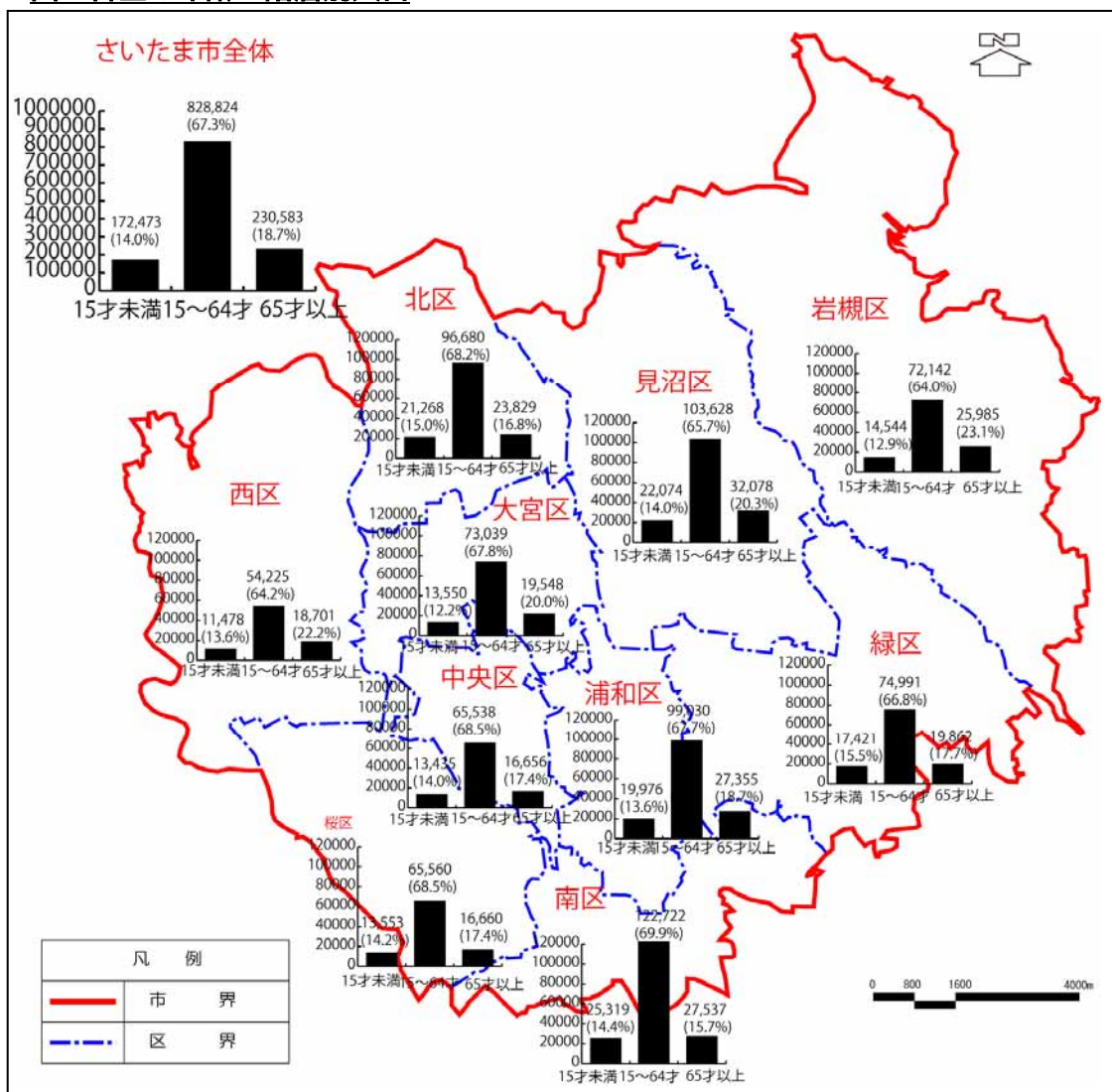
埼玉県 2010年頃から減少傾向
 さいたま市 2015年頃から減少傾向

(上記推計値は人口研中位推計ベース)

岩槻区の年齢構成（さいたま市内の比較）

- ・岩槻区の15歳未満の比率は12.9%でさいたま市内各区と比べ二番目に低い。
- ・15歳～64歳の比率が64.0%と市内で最も低い。
- ・岩槻区の65歳以上の比率は23.1%と市内で最も高い。
- ・岩槻区の年齢構成は、さいたま市の中で少子高齢化が最も進行している。

図 各区の年齢3階層別人口



年齢3階層別の人口

(平成22年11月1日)

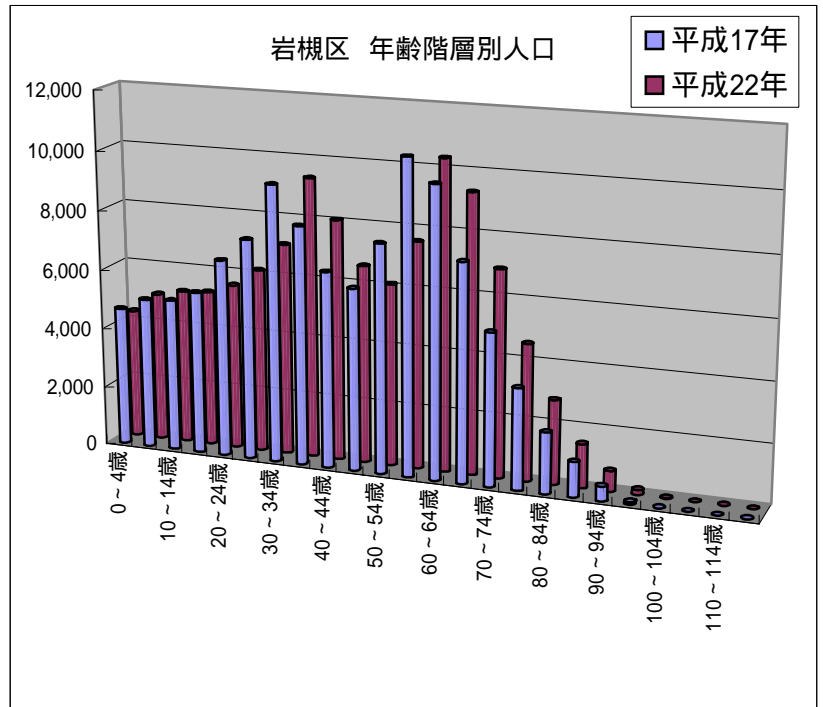
年齢区分	さいたま市		西区		北区		大宮区		見沼区		中央区	
	人口 (人)	構成比 (%)	人口 (人)	構成比 (%)	人口 (人)	構成比 (%)	人口 (人)	構成比 (%)	人口 (人)	構成比 (%)	人口 (人)	構成比 (%)
14歳以下	172,473	14.00	11,478	13.60	21,268	15.00	13,405	12.23	22,074	13.99	13,435	14.05
15～64歳	828,824	67.28	54,225	64.24	96,680	68.19	74,308	67.78	103,628	65.68	65,538	68.53
65歳以上	230,583	18.72	18,701	22.16	23,829	16.81	21,920	19.99	32,078	20.33	16,656	17.42
人口総数	1,231,880	100.00	84,404	100.00	141,777	100.00	109,633	100.00	157,780	100.00	95,629	100.00

年齢区分	桜区		浦和区		南区		緑区		岩槻区	
	人口 (人)	構成比 (%)	人口 (人)	構成比 (%)	人口 (人)	構成比 (%)	人口 (人)	構成比 (%)	人口 (人)	構成比 (%)
14歳以下	13,553	14.15	19,976	13.65	25,319	14.42	17,421	15.52	14,544	12.91
15～64歳	65,560	68.45	99,030	67.66	122,722	69.90	74,991	66.79	72,142	64.03
65歳以上	16,660	17.40	27,355	18.69	27,537	15.68	19,862	17.69	25,985	23.06
人口総数	95,773	100.00	146,361	100.00	175,578	100.00	112,274	100.00	112,671	100.00

岩槻区 年齢階層別人口
(住民基本台帳 各年11月1日)

	平成17年	平成22年
0～4歳	4,661	4,344
5～9歳	5,055	5,007
10～14歳	5,109	5,193
15～19歳	5,464	5,248
20～24歳	6,629	5,564
25～29歳	7,395	6,160
30～34歳	9,277	7,095
35～39歳	7,991	9,367
40～44歳	6,566	8,059
45～49歳	6,101	6,621
50～54歳	7,661	6,101
55～59歳	10,502	7,584
60～64歳	9,707	10,343
65～69歳	7,307	9,328
70～74歳	5,110	6,923
75～79歳	3,390	4,574
80～84歳	2,042	2,824
85～89歳	1,181	1,470
90～94歳	490	689
95～99歳	91	165
100～104歳	3	12
105～109歳	1	0
110～114歳	0	0
115歳以上	0	0
人口総数	111,733	112,671

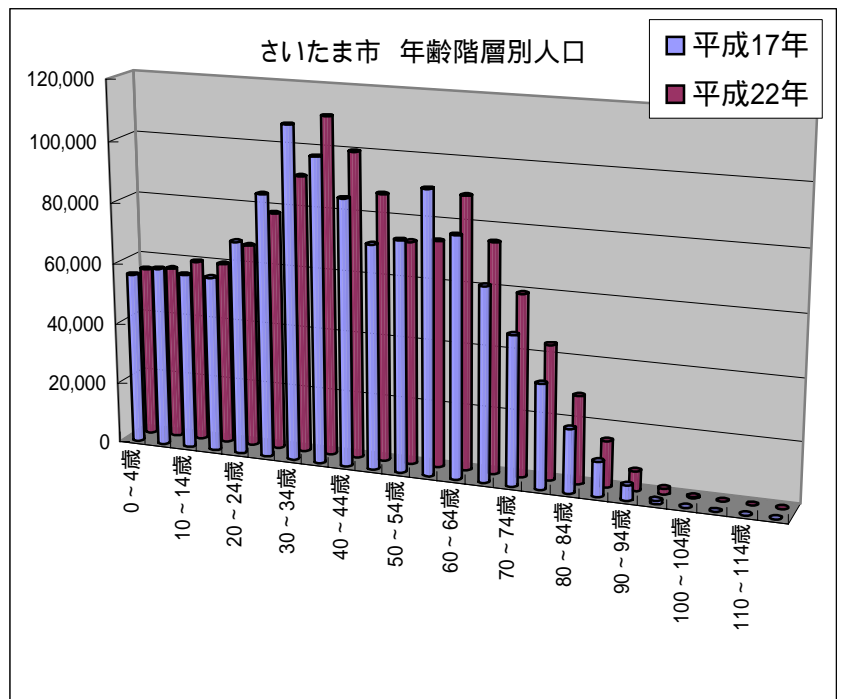
	平成17年	平成22年
14歳以下	14,825	14,544
15～64歳	77,293	72,142
65歳以上	19,615	25,985
人口総数	111,733	112,671



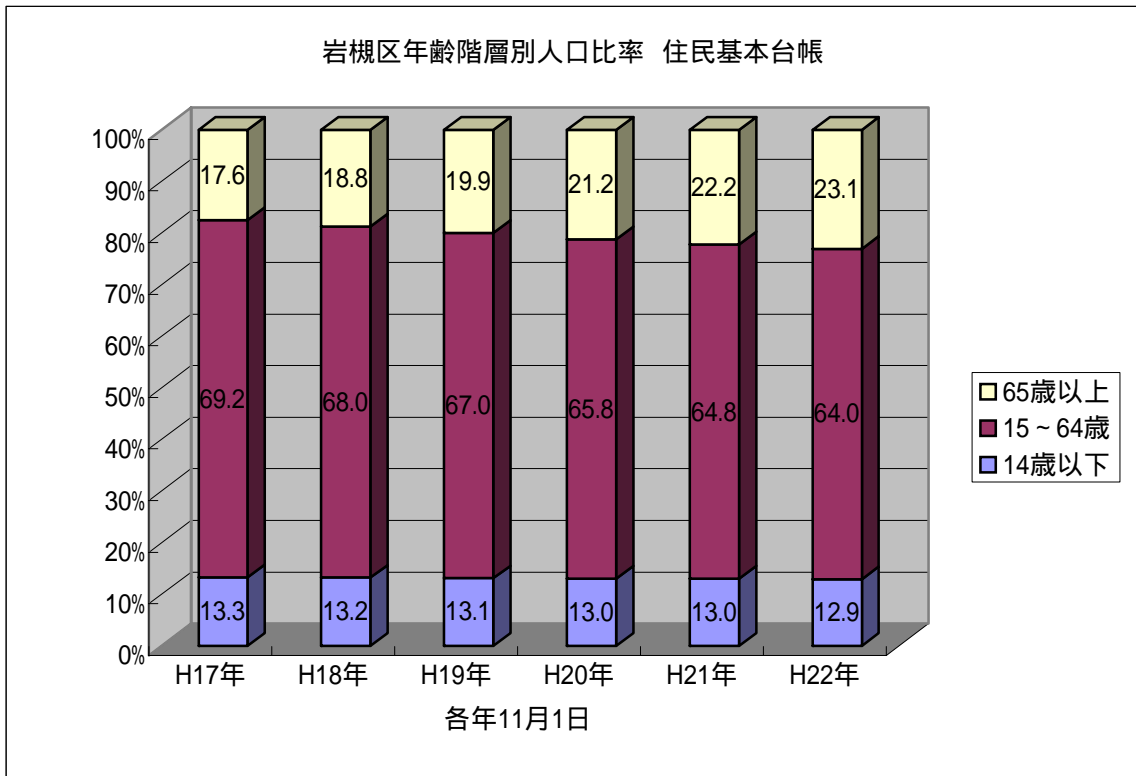
さいたま市 年齢階層別人口
(住民基本台帳 各年11月1日)

	平成17年	平成22年
0～4歳	56,197	55,832
5～9歳	58,940	56,773
10～14歳	57,808	59,868
15～19歳	57,664	59,897
20～24歳	70,191	66,814
25～29歳	86,278	78,145
30～34歳	109,017	90,808
35～39歳	99,577	110,569
40～44歳	87,121	99,999
45～49歳	73,278	87,213
50～54歳	75,406	72,721
55～59歳	92,240	73,788
60～64歳	78,502	88,870
65～69歳	63,340	74,971
70～74歳	48,771	59,431
75～79歳	34,247	44,042
80～84歳	20,805	28,584
85～89歳	11,333	15,040
90～94歳	4,934	6,425
95～99歳	1,170	1,829
100～104歳	97	255
105～109歳	5	6
110～114歳	0	0
115歳以上	0	0
人口総数	1,186,921	1,231,880

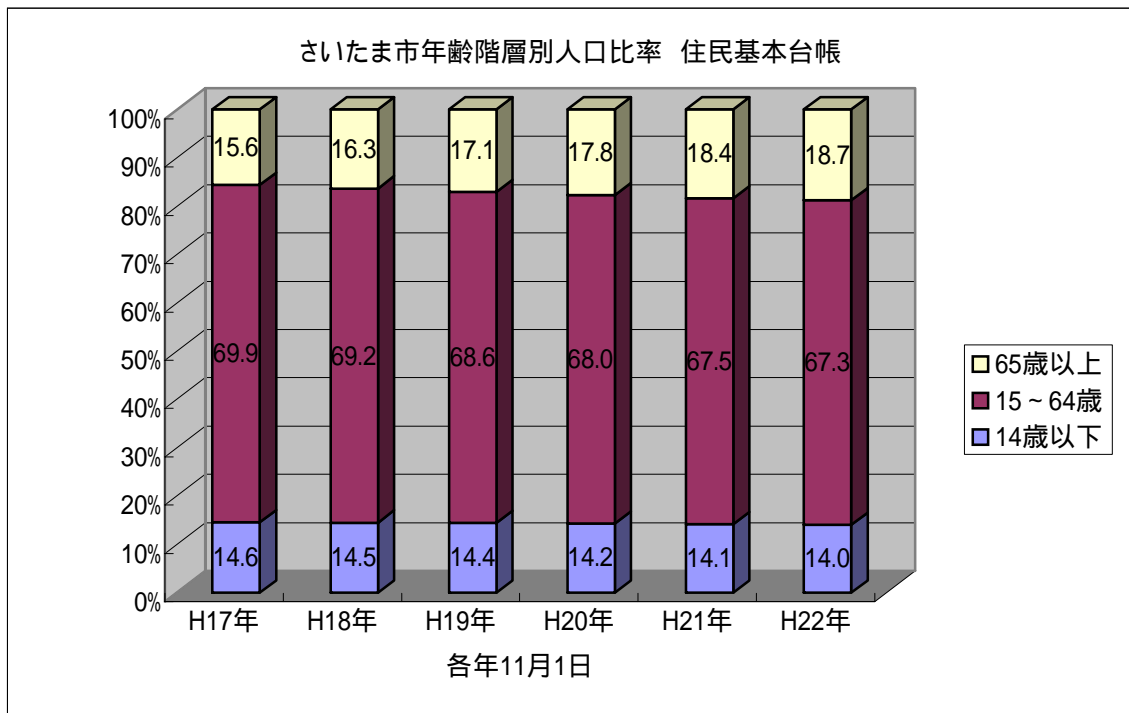
	平成17年	平成22年
14歳以下	172,945	172,473
15～64歳	829,274	828,824
65歳以上	184,702	230,583
人口総数	1,186,921	1,231,880



岩槻区	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年
14歳以下(人)	14,825	14,782	14,607	14,578	14,677	14,544
15～64歳(人)	77,293	76,004	74,638	73,634	73,050	72,142
65歳以上(人)	19,615	20,952	22,226	23,695	25,069	25,985
総人口(人)	111,733	111,738	111,471	111,907	112,796	112,671



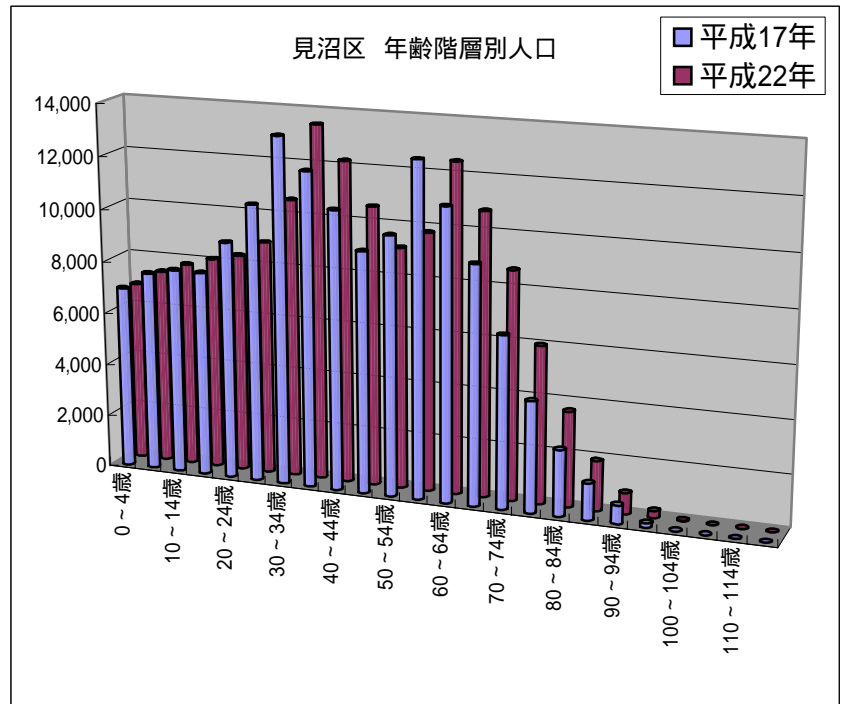
さいたま市	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年
14歳以下(人)	172,945	172,506	172,507	172,432	172,520	172,473
15～64歳(人)	829,274	825,912	823,587	823,627	825,719	828,824
65歳以上(人)	184,702	194,621	205,198	215,062	224,761	230,583
総人口(人)	1,186,921	1,193,039	1,201,292	1,211,121	1,223,000	1,231,880



見沼区 年齢階層別人口
(住民基本台帳 各年11月1日)

	平成17年	平成22年
0～4歳	6,951	6,856
5～9歳	7,612	7,423
10～14歳	7,823	7,795
15～19歳	7,809	8,091
20～24歳	9,058	8,326
25～29歳	10,564	8,911
30～34歳	13,178	10,600
35～39歳	11,956	13,470
40～44歳	10,605	12,208
45～49歳	9,168	10,593
50～54歳	9,847	9,154
55～59歳	12,683	9,797
60～64歳	11,074	12,478
65～69歳	9,069	10,757
70～74歳	6,561	8,683
75～79歳	4,228	5,995
80～84歳	2,519	3,639
85～89歳	1,395	1,890
90～94歳	700	811
95～99歳	168	264
100～104歳	7	39
105～109歳	1	0
110～114歳	0	0
115歳以上	0	0
人口総数	152,976	157,780

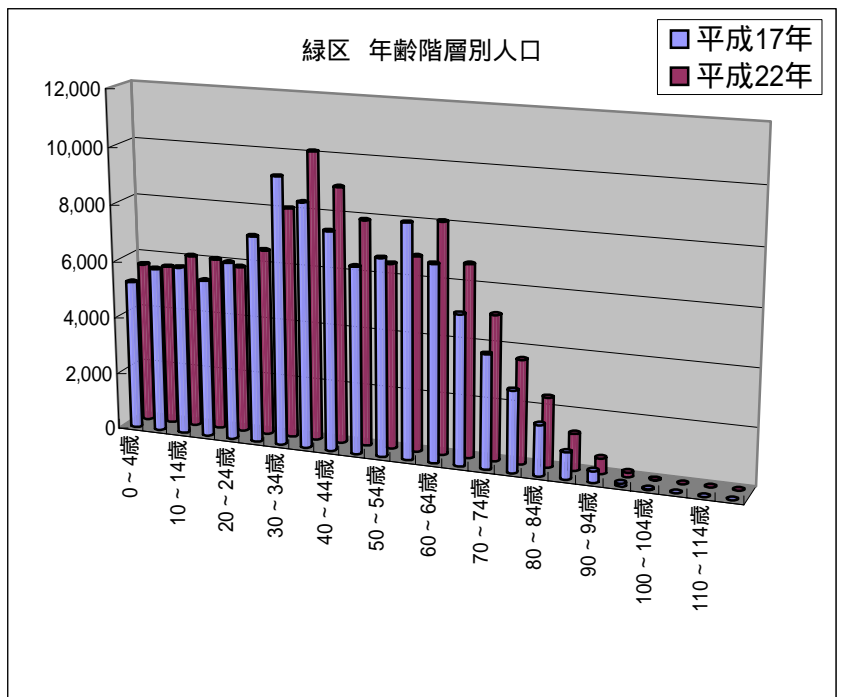
	平成17年	平成22年
14歳以下	22,386	22,074
15～64歳	105,942	103,628
65歳以上	24,648	32,078
人口総数	152,976	157,780



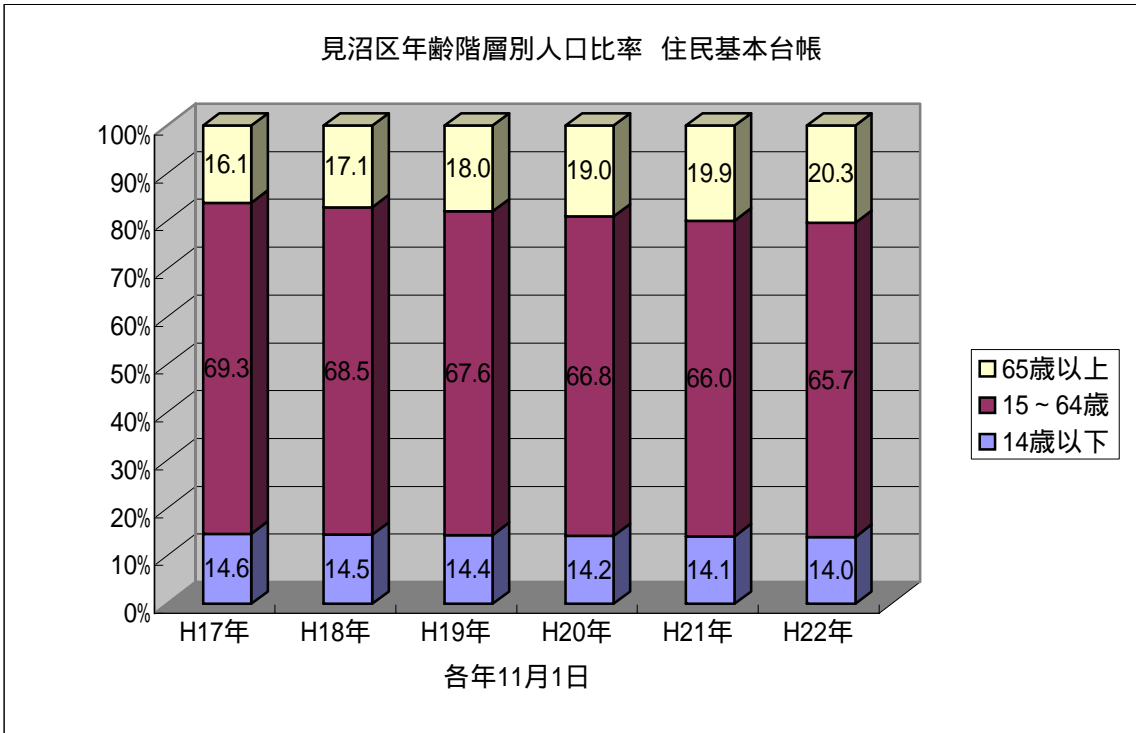
緑区 年齢階層別人口
(住民基本台帳 各年11月1日)

	平成17年	平成22年
0～4歳	5,251	5,658
5～9歳	5,796	5,652
10～14歳	5,930	6,111
15～19歳	5,548	6,079
20～24歳	6,260	5,885
25～29歳	7,260	6,551
30～34歳	9,384	8,090
35～39歳	8,570	10,109
40～44歳	7,666	8,965
45～49歳	6,533	7,905
50～54歳	6,915	6,494
55～59歳	8,184	6,826
60～64歳	6,872	8,087
65～69歳	5,261	6,722
70～74歳	3,988	5,079
75～79歳	2,850	3,629
80～84歳	1,771	2,433
85～89歳	939	1,279
90～94歳	411	540
95～99歳	107	158
100～104歳	13	22
105～109歳	1	0
110～114歳	0	0
115歳以上	0	0
人口総数	105,510	112,274

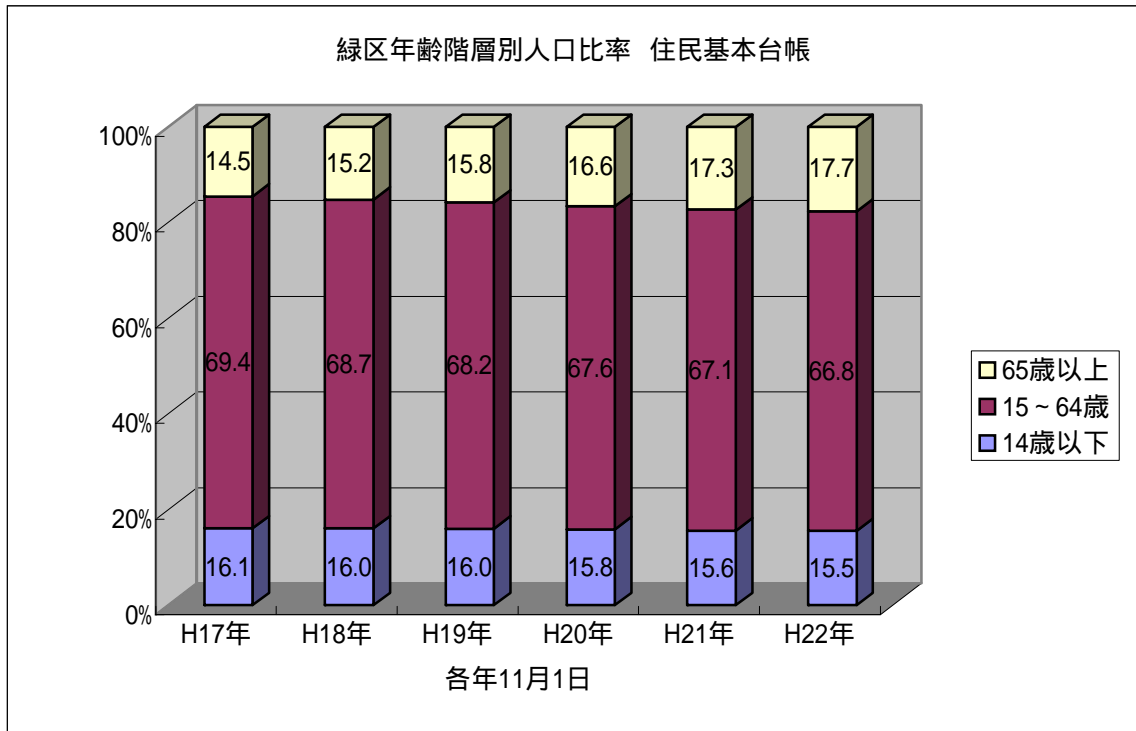
	平成17年	平成22年
14歳以下	16,977	17,421
15～64歳	73,192	74,991
65歳以上	15,341	19,862
人口総数	105,510	112,274



見沼区	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年
14歳以下(人)	22,386	22,208	22,348	22,105	22,045	22,074
15～64歳(人)	105,942	105,212	104,690	103,851	103,158	103,628
65歳以上(人)	24,648	26,209	27,838	29,590	31,129	32,078
総人口(人)	152,976	153,629	154,876	155,546	156,332	157,780

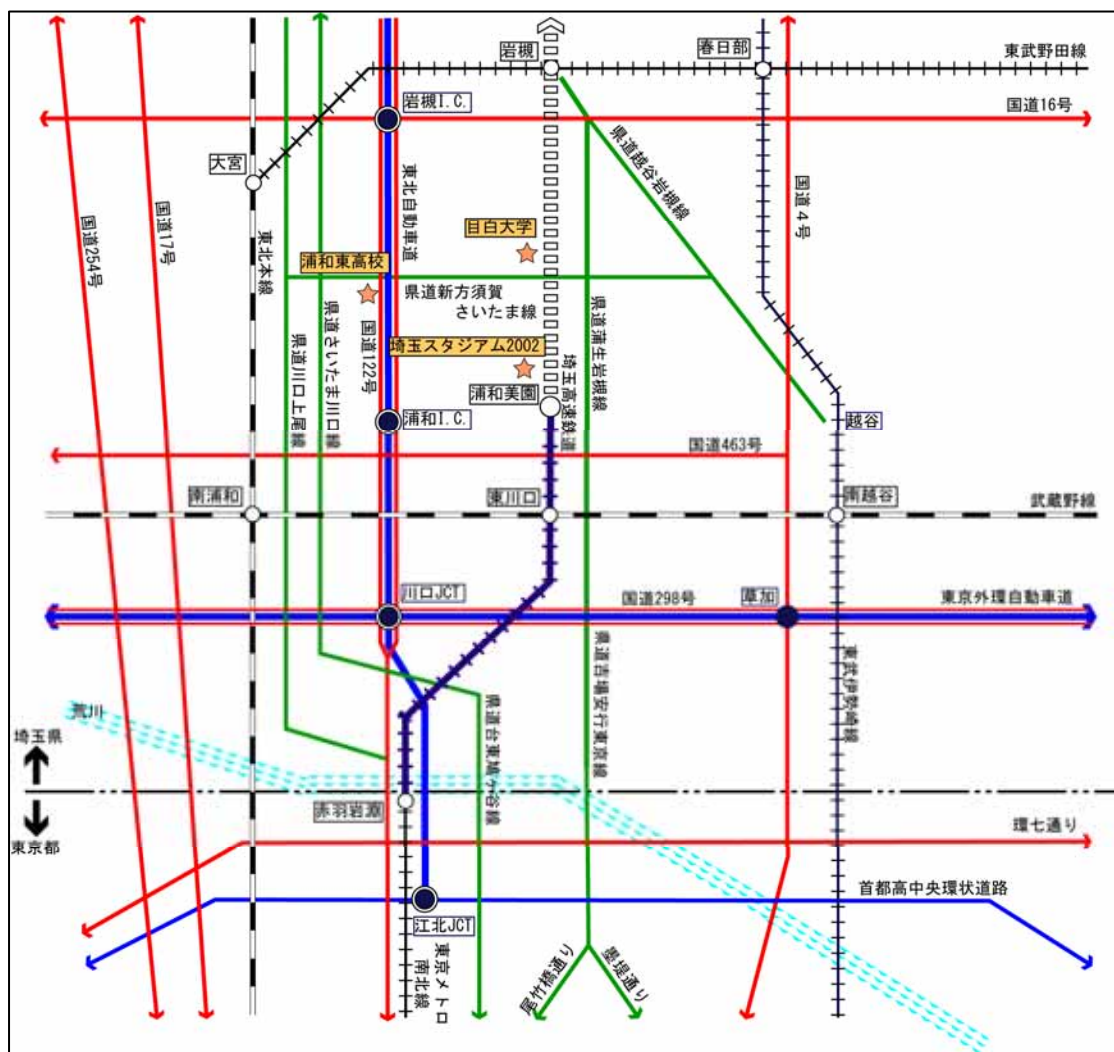


緑区	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年
14歳以下(人)	16,977	17,096	17,402	17,419	17,328	17,421
15～64歳(人)	73,192	73,206	74,098	74,266	74,497	74,991
65歳以上(人)	15,341	16,223	17,206	18,242	19,208	19,862
総人口(人)	105,510	106,525	108,706	109,927	111,033	112,274



・交通網について

中間駅周辺現況広域交通情報図



中間駅周辺の現状交通情報

広域道路

- ・南北軸として駅西側に東北自動車道や国道 122 号があり、岩槻 I.C、浦和 I.C がある。
- ・東西軸として国道 16 号と国道 463 号があり、国道 4 号と接続している。

地域道路

- ・南北軸として県道蒲生岩槻線がある。
- ・東西軸として県道新方須賀さいたま線がある。

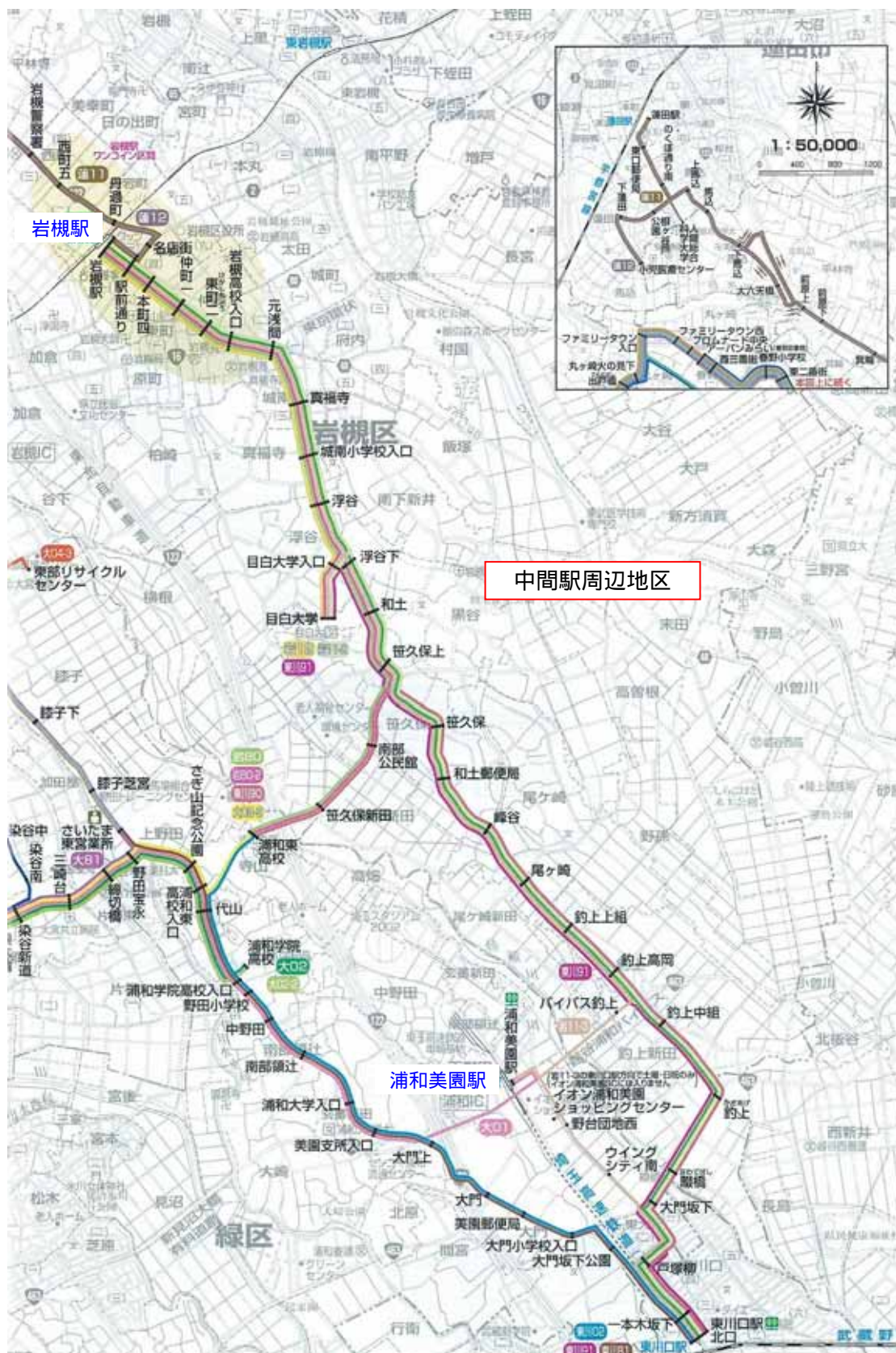
鉄道

- ・浦和美園駅より都心まで直結している。
- ・岩槻駅より大宮駅又は春日部駅乗り換えで都心と接続している。

バス

- ・岩槻駅から浦和美園駅や東川口駅まで県道蒲生岩槻線等を通して運行している。
- ・岩槻駅から浦和東高校まで県道蒲生岩槻線、県道新方須賀さいたま線を通して運行している。

バス路線マップ（県道蒲生岩槻線）



（出典：国際興業バス路線案内）

時刻表

県道蒲生岩槻線を通るバス系統は以下の6系統

岩11、岩11-3、岩12、岩80、岩80-2、東川90

岩槻駅発

系統 岩11 岩11-3 岩12 岩80 岩80-2

行き先 目白大学・浦和美園駅経由 東川口駅北口

時	平日	時	土曜	時	日祝
6	東 35	6	東 35	6	東 35
7	東 04 20 40	7	東 △ 12 50	7	△ 50
8	め め ● ● め 00 10 20 30 36 40 50	8	△ 35	8	△ 35
9	● 00 20 35 55	9	△ 21	9	△ 21
10	● ● 10 20 40	10	△ △ 08 54	10	△ △ 08 54
11	● め め 00 17 35 54	11	◎ △ 28 40	11	◎ △ 28 40
12	め ● 20 30 42	12	◎ △ 21 26	12	◎ △ 20 26
13	め め ● 00 27 42 58	13	◎ △ ◎ 07 12 27	13	◎ △ ◎ 07 12 27
14	● め 11 24 38	14	△ △ 00 50	14	△ △ 00 50
15	● め 05 16 42	15	△ ◎ ◎ 30 35 40	15	△ ◎ ◎ 30 35 40
16	め め 08 26 43 56	16	◎ △ ◎ 17 20 30	16	△ ◎ 20 30
17	め め 18 37 50 58	17	△ 15	17	△ 15
18	◎ め ◎ 06 18 29 43 59	18	△ △ ◎ 05 50 55	18	△ △ ◎ 05 50 55
19	め 09 34 46 57	19	△ ◎ 40 45	19	△ ◎ 40 45
20	◎ ◎ め 15 20 28 39	20	△ 30	20	△ 30
21	◎ 05 25 45	21	△ ◎ ◎ 20 37 56	21	△ ◎ ◎ 20 37 56
22	◎ 05	22		22	

無印…目白大学・イオン浦和美園SC経由 東川口駅北口ゆき

△…イオン浦和美園SC構内には入りません

め…目白大学ゆき

●…目白大学経由 浦和東高校ゆき(浦和美園駅・イオンSCにはまいりません)

東…釣上経由 東川口駅北口ゆき(目白大学・浦和美園駅・イオンSCにはまいりません)

◎…浦和東高校ゆき(目白大学・浦和美園駅・イオンSCにはまいりません)

※△印便でイオンSCへお越しの方は、浦和美園駅または野台団地西をご利用ください。

お問合せ:さいたま東営業所 TEL 048-812-1577 FAX 048-878-4366

(出典:国際興業バスホームページ)

東川口駅発

系統 岩11 岩11-2 岩11-3 東川90

行き先 イオン浦和美園SC・目白大学経由 岩槻駅

時	平日	時	土曜	時	日祝
6	釣 釣 30 55	6	釣 30	6	
7	目 19 35 50	7	釣 12 50	7	釣 12 50
8	直 06 15 26 55	8	35	8	35
9	25 50	9	21	9	21
10	15 45	10	08 54	10	08 54
11	35	11	東 25 40	11	東 25 40
12	30	12	26	12	26
13	25	13	12	13	12
14	東 20 44	14	東 02 26 50	14	東 02 26 50
15	15	15	40	15	40
16	東 08 55	16	25	16	25
17	00 35	17	15	17	15
18	10 42	18	10 55	18	10 55
19	09 35 56	19	40	19	40
20	東 20 40	20	30	20	30
21	東 20 47	21	東 東 06 20 55	21	東 東 06 20 55
22	東 10	22		22	

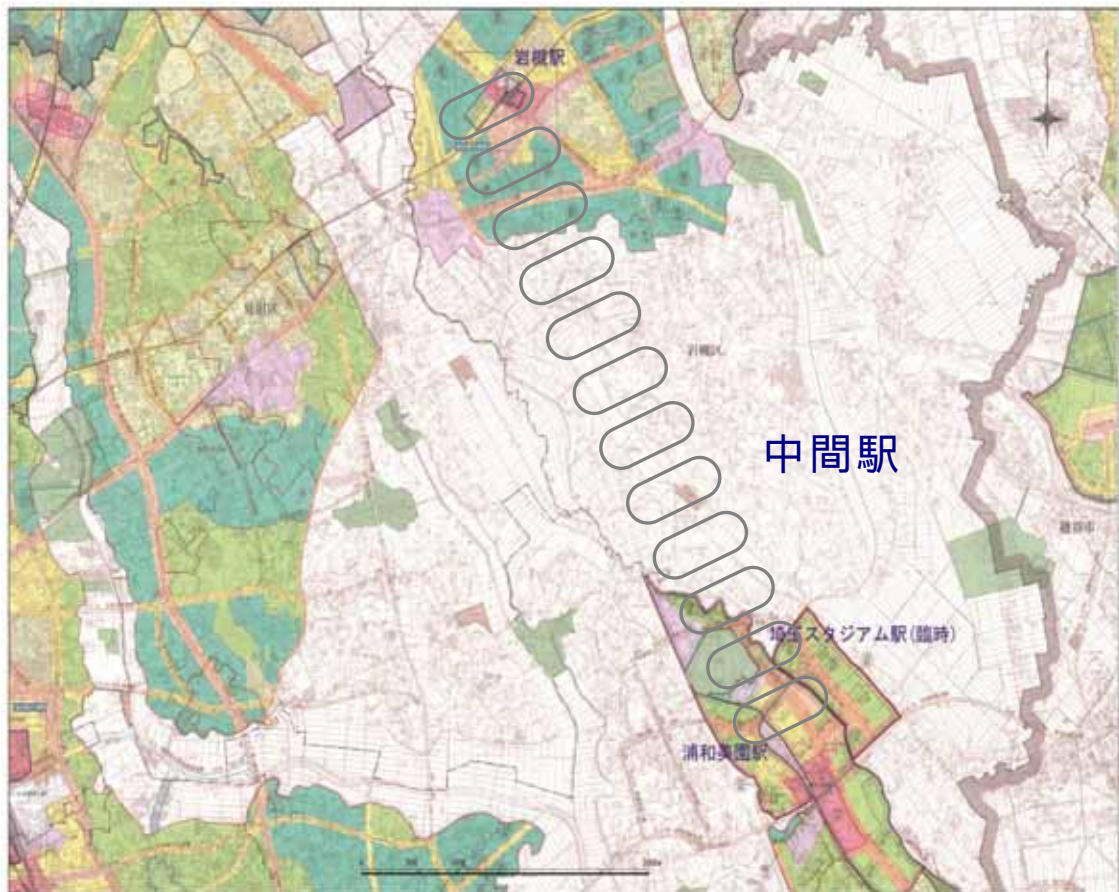
無印…イオン浦和美園SC・目白大学経由 岩槻駅ゆき(釣上にはまいりません)
 釣…釣上経由 岩槻駅ゆき(イオン浦和美園SC・目白大学にはまいりません)
 目…釣上・目白大学経由 岩槻駅ゆき(イオン浦和美園SCにはまいりません)
 東…釣上経由 浦和東高校ゆき(イオン浦和美園SC・目白大学にはまいりません)
 直…直行《ノンストップ》目白大学ゆき(途中停留所にはとまりません)
 ※目白大学休校期間の平日は「休校ダイヤ」で運行いたします。
 詳しくは担当営業所にお問合せください。
 お問合せ:さいたま東営業所 TEL 048-812-1577 FAX 048-878-4366

(出典：国際興業バスホームページ)

・都市計画等の概要について

さいたま市都市計画図

土地利用 東武野田線岩槻駅を中心として市街化区域がコンパクトにまとまっている。市街化調整区域は、割合及び面積ともに、市内各区で最大である。(岩槻区内の市街化調整区域の割合は約8割)



(資料：都市計画図に延伸線を記入)

さいたま市総合振興計画（策定年：平成 18 年 1 月改定）

中間駅の隣駅になる「浦和美園駅周辺」と「岩槻駅周辺」は、多核連携型の都市構造を実現に向けた拠点としての形成を図るような『副都心』として位置づけられている。

本市の都市構造は、都市への機能集積、副都市の育成にあわせて、都市軸の機能性の向上による都心・副都心の連携の強化を図るとともに、多核連携型の都市構造の実現を目指すとしている。

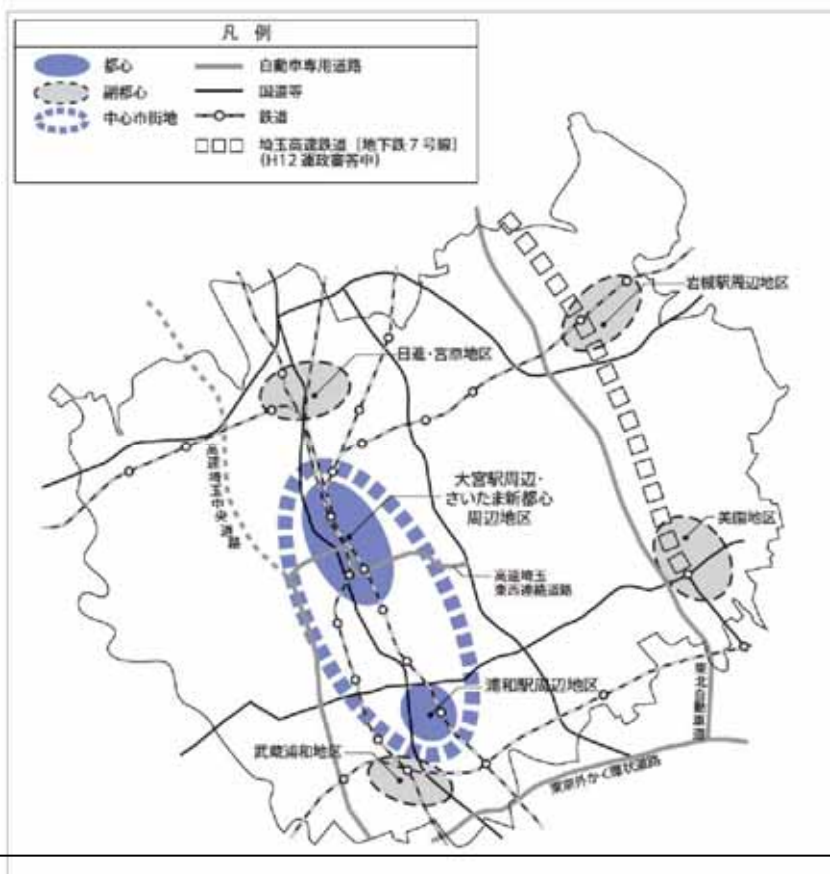
拠点の構成と機能は、次のとおりである。

<基本的な考え方>

- ・拠点は、都心、副都心、地域拠点から構成されている。
- ・大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区並びに浦和駅周辺地区を本市の2つの「都心」と位置付け、2つの都心を包含する区域を「中心市街地」としている。
- ・多核連携型の都市構造の実現に向けた拠点として、日進・宮原地区、武蔵浦和地区、美園地区、岩槻駅周辺地区の4地区を「副都心」と位置付けている。
- ・主な鉄道駅周辺や区役所周辺などを「地域拠点」と位置付けている。

<副都心>

- ・4つの副都心(日進・宮原地区、武蔵浦和地区、美園地区、岩槻駅周辺地区)は、都心と連携しながら、その機能を補完するとともに、本市の都市活動を多様化する役割を果たすとしている。
- ・そのため、都市基盤の整備を進めながら、商業・業務機能や文化機能などの高次都市機能の集積、都心居住の実現、地域に集積する歴史文化資源の活用による交流機能の向上を図り、地域の自然環境を生かしつつ、それぞれの特性に応じた拠点の形成を進める。



さいたま市総合振興計画（策定年：平成 18 年 1 月改定）

岩槻区において、大宮西部や美園地区をはじめ、地下鉄 7 号線延伸に伴って、新しい市街地形成を進める場合には、環境との共生を図りながら質の高い宅地を計画的に供給していく必要があると提案されている。

岩槻区の特徴は、次のとおりである。

- ・中世から鎌倉街道の交通の要衝であり、室町時代から城下町として発展してきた。また、人形のまちとしても有名で各種のイベントが開催されている。

<都市基盤・環境>

- ・区の中央を東武野田線が東西に延び、岩槻駅、東岩槻駅の 2 駅が区民の重要な足となっている。
- ・現在、地下鉄 7 号線の延伸促進の取り組みが行われており、南北方向の新しい軸の形成が期待されている。

<産業>

- ・400 年近い歴史がある人形作りは、伝統工芸品に指定されているが、年々減少傾向にあり、観光などとの連携による活性化が模索されている。
- ・北部にある岩槻工業団地は、機械、金属などの製造業である。
- ・10 区の中で最も活発な農業は、米のほかクワイ、ネギなどの野菜、アサガオ、シクラメンなどの花や花卉を生産している。

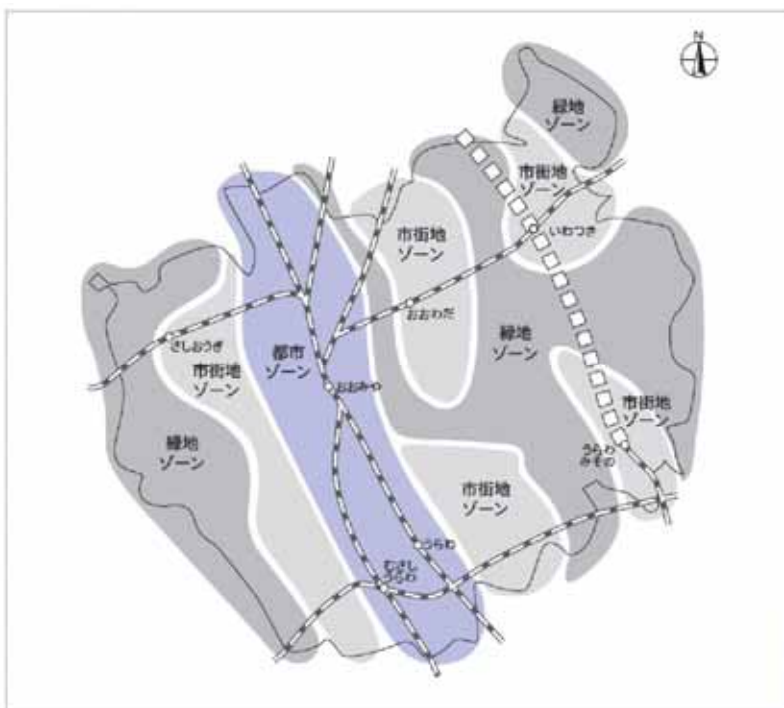
<地域資源>

- ・国指定の史跡真福寺貝塚、慈恩寺等の歴史資源が多く分布する。
- ・水と緑も岩槻区を象徴する資源となっている。

<コミュニティ>

- ・長い歴史のある地域コミュニティ活動も活発な区である。

本市では今後とも人口の増加が見込まれ、大宮西部や美園地区をはじめ、地下鉄 7 号線の延伸に伴って、新しい市街地形成を進める場合には、環境との共生を図りながら、質の高い宅地を計画的に供給していくことが必要である。



さいたま都市計画マスタープラン（策定年：平成 17 年 12 月改定）

交通基盤の充実として、地下鉄 7 号線延伸などにより、市内外との交流や連携を促進し、活力あるまちづくりを進めると提案されている。

岩槻区の将来像は、「自然と歴史、文化を楽しむまち」であり、そのためのまちづくりの基本方針は、次のとおりである。

<歴史・文化を生かした、にぎわいと魅力ある拠点づくり>

- ・岩槻駅周辺地区は、特徴ある歴史・文化資源を活用しながら、商業・業務・文化・交流機能を集積し、にぎわいと魅力ある拠点づくりを進める。

<交通基盤が充実し、交流や連携を育むまちづくり>

- ・幹線道路や公共交通網の強化・充実を図り、あわせて、埼玉高速鉄道（地下鉄 7 号線）延伸などにより、市内外との交流や連携を促進し、活力あるまちづくりを進める。

<生活基盤が整った安全で暮らしやすいまちづくり>

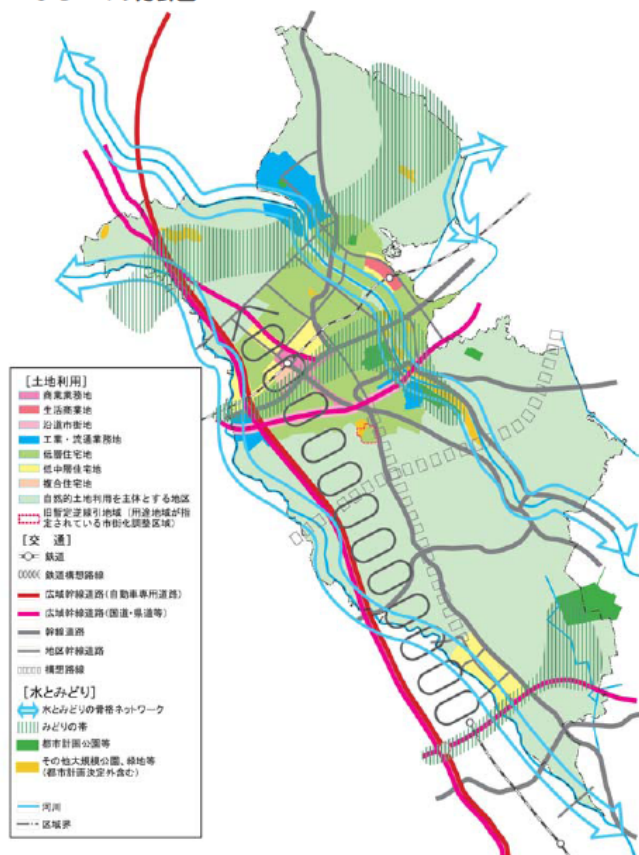
- ・鉄道駅を中心に、地域生活拠点の機能向上、都市基盤の整備充実、公共交通の利便性向上、歩行者空間及び自転車走行空間の整備などにより、生活基盤が整った安全で暮らしやすいまちづくりを進める。

<身近な自然と共生するまちづくり>

- ・元荒川、綾瀬川などの河川空間、斜面林・屋敷林などのみどり資源、農地と集落による田園景観などの保全と活用により、恵まれた自然環境に囲まれたうらおいのあるやすらぎのあるまちづくりを進める。

3 分野別まちづくりの方針

まちづくり方針図

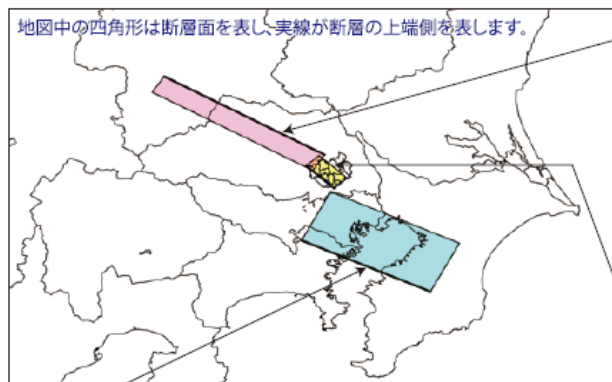




想定される地震



さいたま市に大きな影響を及ぼすと考えられるのは、次の3つの地震です。



関東平野北西縁断層帯地震(マグニチュード8.0)

群馬県高崎市(旧榛名町)から埼玉県伊奈町にかけての、長さ約82kmに及ぶ活断層によって引き起こされる地震です。今後300年以内の発生確率はほぼ0%~0.1%ですが、過去の地震のデータも少なく、この発生確率の信頼度もやや低いとされています。活動間隔も1万3千年~3万年程度と非常に長いのですが、ひとたび活動するとマグニチュード8.0という大地震となり、大きな被害を引き起こすことが想定されています。

また、この関東平野北西縁断層帯は、単一の断層ではなく、綾瀬川断層(マグニチュード6.9)や深谷断層(マグニチュード7.5)など複数の断層から構成されています。これらの断層は単独で地震を起こす場合もありますが、ここでは関東平野北西縁断層帯全体が一度に地震を起こす場合(揺れが最も大きくなる場合)を想定して、揺れの予測を行っています。

東京湾北部地震(マグニチュード7.3)

首都直下では、陸のプレート(北米プレート)の下に海側からフィリピン海プレートと太平洋プレートが沈み込んでおり、さまざまなタイプの地震が発生しています。特に、次の関東大地震タイプの地震(マグニチュード8)に先立って、マグニチュード7程度の地震が発生すると考えられています。そのひとつが、フィリピン海プレート内で発生する東京湾北部地震です。発生確率は、今後10年以内に30%、30年以内に70%、50年以内に90%と予測されています。

さいたま市直下地震(マグニチュード6.9)

マグニチュード6クラスの地震では、断層が地表に現れないことがあります。したがって、地学的に活断層の存在が確かめられていない地域でも、未知の活断層が地震を起こすことは否定できません。そこで、いつどこで起こるかわからない地震も想定しておく必要があります。

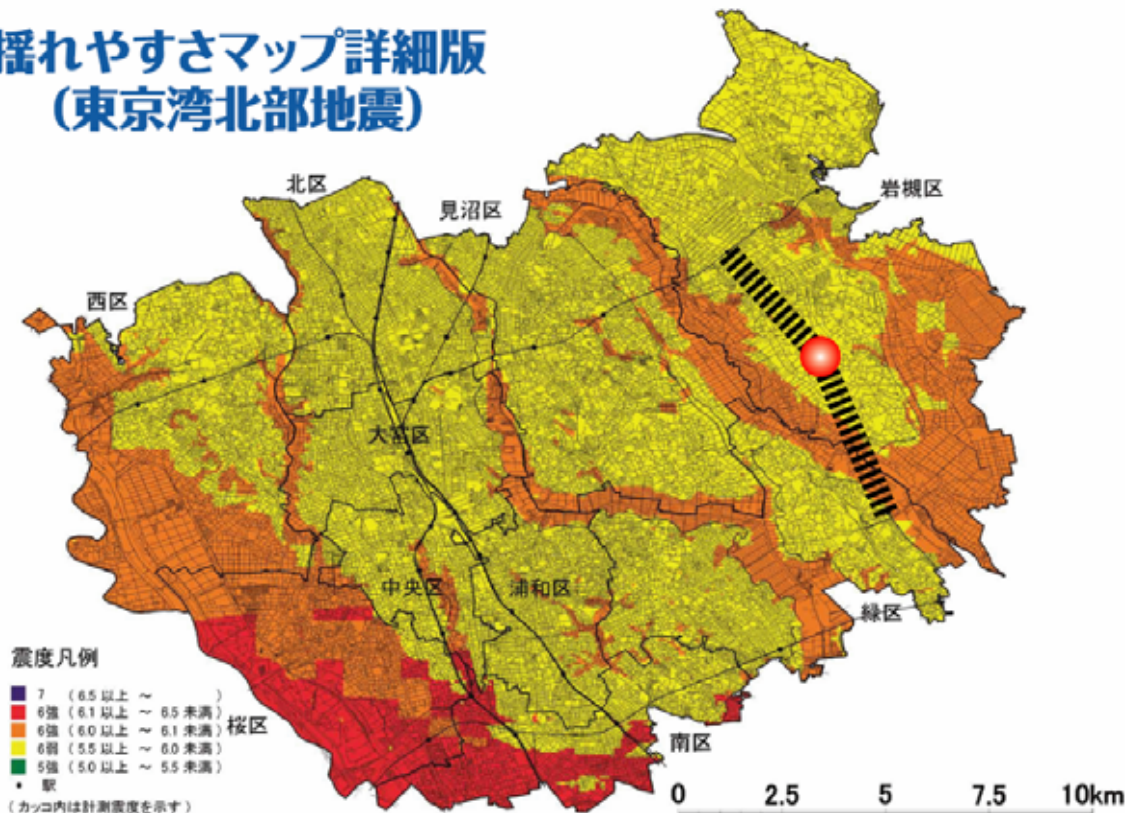
ここでは、こうしたいつどこで起こるかわからない地震が、さいたま市の直下で起こることを想定しています。想定した地震の規模は、マグニチュード6クラスの最大である、マグニチュード6.9です。



さいたま市地震マップ



揺れやすさマップ詳細版 (東京湾北部地震)

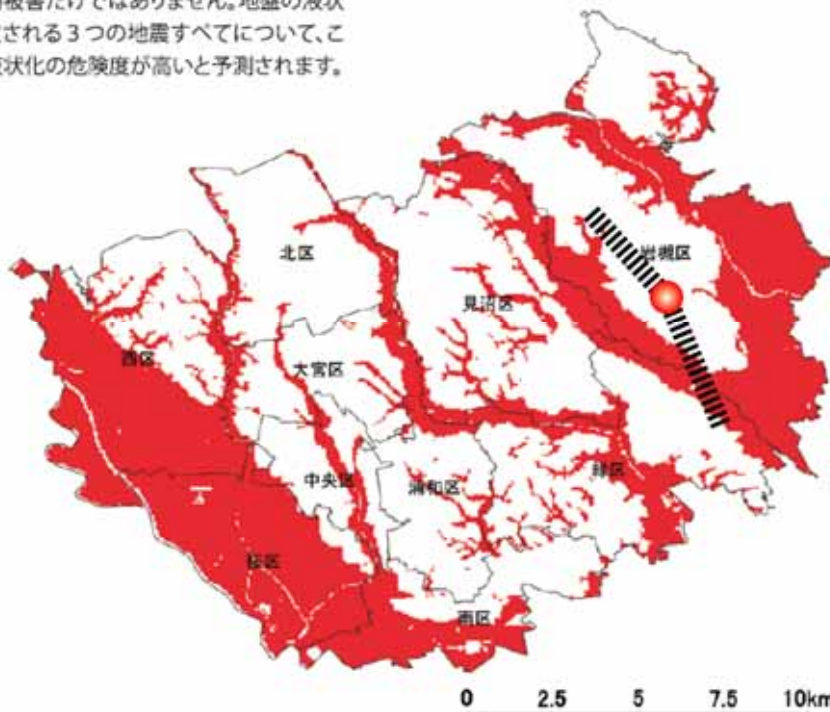




液状化危険度マップ



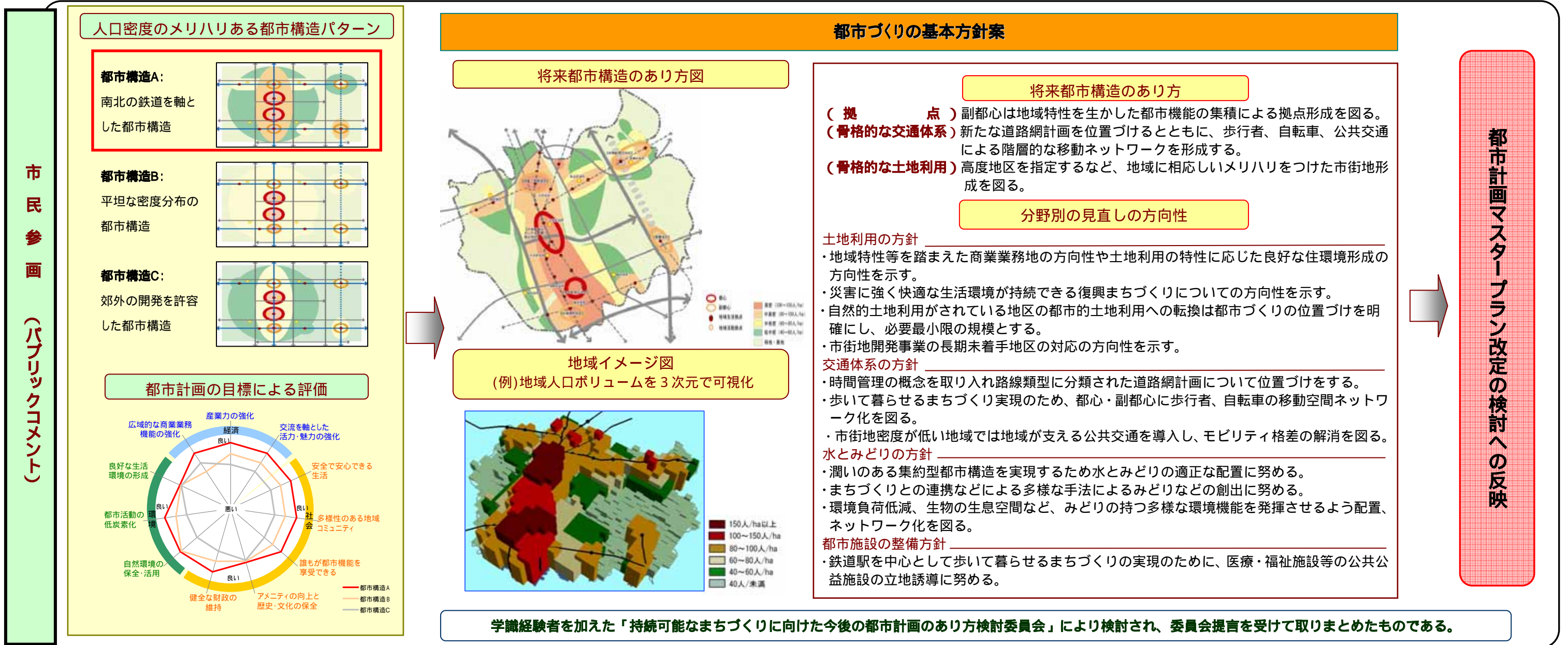
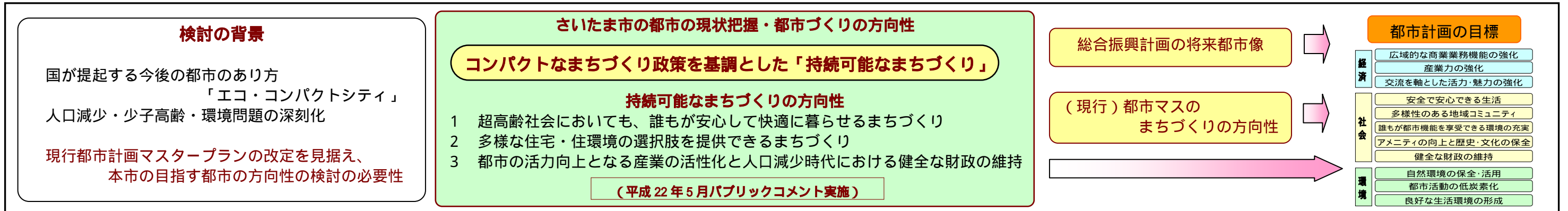
地震による被害は、揺れによる建物被害だけではなく、地盤の液状化は、その代表的なものです。想定される3つの地震すべてについて、この地図で赤く塗られた地域では、液状化の危険度が高いと予測されます。



(資料：さいたま市地震マップに延伸を記入)

持続可能なまちづくりに向けた今後のさいたま市の都市計画のあり方について

- 都市計画マスタープランの改定を見据えた「都市づくりの基本方針案」 -



学識経験者を加えた「持続可能なまちづくりに向けた今後の都市計画のあり方検討委員会」により検討され、委員会提言を受けて取りまとめたものである。

【今後の検討】

都市計画マスタープランの役割を見直し、市民に分かりやすい計画体系とした改定
〔区域マス(整開保)との明確な役割分担、都市計画分野に関する計画(交通マス・景観計画など)の統合的な役割〕
社会経済情勢変化の分析、平成23年度都市計画基礎調査結果などの都市計画マスタープランの改定への反映
検討委員会等を設置し、学識経験者、公募市民等からの助言を踏まえ都市計画マスタープランの改定の検討

【工程表】

都市づくり基本方針案パブコメ・確定
都市マス改定委員会設置・改定案検討
改定案パブコメ・都市計画審議会・改定

